

令和6年度事業報告書

令和6年4月1日から

令和7年3月31日まで

公益財団法人アルカンシエール美術財団

令和6年度事業報告

I. 事業事項

令和6年度 原美術館 ARC 事業概況

令和6年度は、原美術館（品川）閉館から丸三年が経過し、「原美術館 ARC」の名称もようやく周知されてきた感のある一年であった。年末には、品川の屋内外に点在していた常設作品の大規模移設プロジェクトの締めくくりとして、ナム ジュン パイク作『ニーシェイン T』を開架式収蔵庫に移設した。現在は、メンバーシップ会員や美術関係者に、作品の脇に置いたモニターで在りし日の姿を伝える映像をごらんいただいているが、技術革新により近い将来、再び本来の形で鑑賞できる日が来ることを期待している。

本年度の入館者数は 27,023 名、開館日数は 265 日、平均入館者数は 102 名、入館料収入の総額は 34,813,436 円（税別）であった。前年比で入館者数は 123%、入館料収入は 125%という好調ぶりは、ザ・ミュージアムショップやカフェダールの営業成績にも比例した。[ショップ売上 25,480,749 円（税別）、カフェ売上 13,336,009 円（税別）] *ショップは前年度、青森県美への奈良美智グッズ売上有。

展覧会については、「多彩で質の高いコレクションを、テーマを設けて展観する」という従来の姿勢を貫きながら、第一期、第二期それぞれ「日本のまんなかでアートを叫んでみる」「心のまんなかでアートをあじわってみる」と、日ごろ美術館に行き慣れていない観光客の方にも親しみの持てるタイトルを採用したことも功を奏し、メディアの取材が相次いだ。常設作品の制作者である森村泰昌氏や東芋氏を招聘して行ったアーティストトークには、多くのファンが全国から駆け付けた。秋には、朝の全国ネットの情報番組での長時間の生中継にも対応。当日は早朝から問い合わせの電話が鳴り続け、放送直後から比較的年齢層の高い入館者が急増する事態となったほか、人気ウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」の「常設展へ行こう！」コーナーに取り上げられ、暮れの 12 日間、連続で公開されたことも年末年始の増員につながった。また、伊香保地域全体の集客の拡大も見逃せない要因のひとつである。テレビをはじめとするマスメディアで伊香保エリアが紹介される機会が増し、20~30 代の宿泊客も目覚ましくアップしている。そこから当館まで足を延ばす観光客の増加や、あるいは当館来訪を主目的として伊香保に宿泊するケースも考えられるが、いずれにせよ温泉宿泊とセットで足を運ぶケースが増えていることは、連日の開館直後の来館者数の増加からも見て取れた。年度末からは久しぶりの海外作家による特別企画「ジャネット カーディフ 40 声のモテット」および「この、原美術館 ARC という時間芸術」展を開催した。カナダ在住のジャネット カーディフを招いて催された講演会とそれに続くミニレセプションには多くのゲストが参集し、作家を囲み華やかで和やかなひとときを過ごす好機となった。その後、年度をまたいだ会期中には、〈聴く彫刻〉を磯崎建築のなかで体感しようと多くの美術関係者の視察が相次いだ。また、所蔵作品をはじめとする資料のデジタル化およびデジタルトランスフォーメーションの一環として初夏より取り組んできた「Bloomberg Connects」への参画準

備の第一段階がようやく終了し、2025年4月より一般公開する運びとなった。アプリのインストールで世界中どこからでもアクセス可能の作品解説などのコレクション情報は、今後も随時更新してゆく予定である。

A. 学芸事項

【1】展覧会の開催

2024年度において次の通り展覧会を開催した。

(1) コレクション展「日本のまんなかでアートをさげんでみる」

会期 2024年3月16日—9月8日

*2023年度から継続 *古美術展示替え：2024年6月13日

会場 原美術館 ARC (展示室：現代美術ギャラリーA、B、Cおよび特別展示室・観海庵)

開催日数 会期全体：158日 (2023年度：14日、2024年度144日)

入館者数 会期全体：15,995人 (1日平均101人)

*2023年度：1,595人 (1日平均114人)、2024年度：14,400人 (1日平均100人)

内容

原美術館 ARC の所在地である渋川市が日本の中心であると自称することから発想し、物事を捉える角度や尺度次第でその位置を様々に変化させる「まんなか」をテーマとした。中心とは何かを問い、様々な中心と周縁との関係を考察する収蔵作品展を開催した。

一般的に原美術館 ARC は、原美術館が日本の中心都市・東京からその周縁へと拠点を移した美術館であると捉えられる傾向にあり、また、企画展を展覧会の中心にすえがちな日本において、当館が注力する収蔵作品展は周縁的な展覧会と見なされることが多いが、本展はそのような既成概念を変えていくための初めの一步とする企画であった。そしてそのための試みとして、原美術館やハラ ミュージアム アーク時代から収蔵作品展に用いていた「原美術館コレクション」や「原六郎コレクション」という副題を使用せず、企画展と同様の主題のみの展覧会名とした。

出品作家

現代美術：安藤正子、磯崎新、榎倉康二、草間彌生、崔在銀、佐藤時啓、杉本博司、戸谷成雄、名和晃平、ヤン ファーブル、バックミンスター フラー、ジョナサン ボロフスキー、森村泰昌、アドリアナ ヴァレジョン、など

古美術：岸駒『寒山拾得』、雪村『列子御風図』、長沢蘆雪『群雀図』、林登科『藻魚図』、『角力図屏風』、など

(2) コレクション展「心のまんなかでアートをあじわってみる」

会期 2024年9月14日—2025年1月13日

*古美術展示替え：2024年11月14日

会場 原美術館 ARC（展示室：現代美術ギャラリーA、B、C および特別展示室・観海庵）開催

日数 105日

入館者数 10,904人（1日平均103.8人）

内容

本年度開催の「まんなか」展、第1期（春夏季）は「日本のまんなかでアートをさげんでみる」と題し、当館のコレクション作品を中心に、「日本のまんなか」を自称する群馬県渋川市から、あるいは鑑賞者自身から「外側」へアートを発信していくような企画を開催した。続く第2期にあたる本展では「心のまんなかでアートをあじわってみる」と題し、作品に向かい合う人それぞれが自身の心の「内側」へと美術を引き寄せることを提案した。

専門的な知識がないと楽しめないと思われてしまいがちな現代美術だが、本来「鑑賞」することの語源は「味覚」や「趣味」を意味する *taste* と同じであり、またそこには個人の「好み」で「判断」する行為も含まれる。各ギャラリーには「遠く離れてみる」や「目を閉じてみる」など、鑑賞のヒントとなる小テーマを設け、また、アンディ ウォーホルや草間彌生、奈良美智など知名度のあるアーティストから、彫刻家が手がけた平面作品といった意外なものまで、来館者それぞれの「今の気持ち」に寄り添えるよう、さまざまな表現の作品をセレクトした。

出品作家

現代美術： マックス ストリッヒャー、増田佳江、加藤泉、横尾忠則、辰野登恵子、吉田克朗、菅井汲、リチャード セラ、米田知子、ジャスパー ジョーンズ、名和晃平、黎 志文、アンディ ウォーホル、デイヴィッド ホックニー、福田美蘭、草間彌生、ロイ リキテンシュタイン、東芋、須田悦弘など

古美術：伝 小栗宗湛《月に猿猴図》、狩野探幽《龍虎図》、円山応挙《淀川兩岸図巻》（下図）など

(3) 「この、原美術館 ARC という時間芸術」

特別企画 「ジャネット カーディフ：40 声のモテット」

*2025 年度へ継続

会期 特別企画および第 1 期：2025 年 3 月 15 日—5 月 11 日

第 2 期：2025 年 5 月 16 日—7 月 6 日

協賛 エルメスジャパン株式会社

会場 原美術館 ARC（現代美術ギャラリーA、B、C および特別展示室・観海庵）

内容

移ろう自然の中で翼を広げる磯崎新建築の端正さに心動き、天窗からの自然光の下で個性あふれる作品と出会い、屋外に出ては草花の咲く庭に点在する宮脇愛子の《うつろひ》や多田美波の《明暗》に環境とともにある作品のあり方を観るといったように、原美術館 ARC での鑑賞体験は、個々の作品鑑賞にとどまらず、当館にあるひとつひとつの要素が、当館に身をおく時間や気象の変化とともに緩やかに繋がっていくという特徴をもつ。そのような原美術館 ARC はそれ自身が詩のような、音楽のような芸術、つまり時間芸術なのではないかと表明する展覧会とする。

会期序盤は、特別企画として、カナダを拠点に活躍するジャネット カーディフのサウンドインスタレーション、《40 声のモテット》を自然光あふれる磯崎新設計のギャラリーA に展示し、音が構築する彫刻的空間を体験する機会とする。

本作は、トマス タリス(16 世紀イングランド王国の作曲家、王室礼拝堂オルガン奏者)作の 40 声の楽曲を再構成したもので、2001 年の発表以来、世界各地で鑑賞されているカーディフの初期代表作である。楕円形に立ち並ぶ 40 台のスピーカーの一台一台から一人一人の声が聞こえ、徐々に声が重なり合い、やがて 40 人が今ここで歌声を響かせ合っているかのような臨場感を来館者は体験することができる。

一方、ギャラリーB と C には当館の収蔵作品から、2024 年高松宮殿下記念世界文化賞を受賞したソフィ カルの《限局性激痛》を展示する。カルの“人生最悪の日”までのカウントダウンと、自身の心の痛みを他人の苦痛と交換することで徐々に痛みが薄れてゆく過程を観る／読むことで、カルのみならず鑑賞する我々の感情にも変化が生じてゆく。

5 月 16 日からのギャラリーA には、李禹煥が当館での個展（1991 年）用に制作した大作の三連画《風と共に》や山本紉の《落下する水》シリーズなど、制作にも鑑賞にも時間の流れを伴う作品群を収蔵作品から選び、ここにしかない、原美術館 ARC という時間芸術を存分に堪能する機会とする。

出品作家（予定）

ジャネット カーディフ、ソフィ カル、剣持和夫、崔在銀、戸谷成雄、宮脇愛子、山本紉、李禹煥など

【2】作品修復・保存

【現代美術】

(1) オラファー エリアソン 《Sunspace for Shibukawa》(2009年)

修復業者：ディーブレン、E.P.A 武松氏監修

2024年9月5日に歪んだ扉部分の蝶番の交換・調整を実施、さらに2025年1月27日から30日にかけて内部スクリーンの補修再塗装工事を実施した。

(2) 草間彌生《自己消滅》(1980年)

修復業者：修復研究所 21

2024年3月14日、展示作業中に作品に付属する展示用ワイヤーが経年劣化のため断裂しレリーフが落下、一部破損した。2024年9月9日、10日に館内にて部分補修を行い、その後、修復研究所 21 へ輸送、修復作業を実施中。(2025年6月頃完了予定)

(3) 福田美蘭《静物》(1992年)

修復業者：修復研究所 21

作品キャンバスのズレと、脆弱な紙製画面の反り防止を実施した。2024年9月9日完了納品。

(4) 遠藤利克《Plan for Sculpture of Circle》(1987年)

修復業者：修復研究所 21

経年劣化による金属板の浮きと、石膏面の亀裂の修復を実施中。

(2025年6月頃完了予定)

(5) 堂本尚郎《連続の溶解》(1965年)

修復業者：修復研究所 21

経年劣化によるキャンバス表面の反りと油絵の具の剥落の修復を実施中。

(2025年6月頃完了予定)

【古美術】

2021年度(令和3年度)に原家より受贈した作品111点中、以下の仏教絵画(計5点)修復を、前年に引き続き実施した。

(修復業者：半田九清堂。内田常務理事と学芸員複数名が3か月ごとに工房へ出向き、進行状況の確認および修復方法の検討を両者により繰り返し実施。2025年5月頃作業完了予定)

1.七佛曼荼羅 2.十一面観音図 3.法華曼荼羅図 4.宝冠釈迦図 5.阿弥陀三尊来迎図

【3】作品の受贈

(1) 原俊夫理事長より、以下の現代美術作品 10 点を受贈した。

1. イヴ クライン 「赤」 1958 年 カンヴァスに油彩 44 x 34 cm



2. ピエロ マンゾーニ 「白ウサギの毛皮」 1961 年 板に塗装、毛皮 41.8 x 36 x 4.5 cm



3. 横尾忠則 「葬列 II」 1969/1985 年 6 枚のアクリル板にシルクスクリーン 74.5 x 113.5 x 9 cm



4. 戸谷成雄 「地霊」 1991 年 木、灰、鉄、ガラス、アクリル 32 x 118.5 x 61 cm



5. ジャン ホワン 「養魚池の水位をあげるために」 1997 年 カラー写真 119.2 x 189.4 cm



6. やなぎみわ 「案内嬢の部屋 1F」 1997 年 カラー写真、アクリル 240 x 210 cm (2 枚組)



7. 佐伯洋江 「Untitled」 2011年 紙にシャープペンシル、色鉛筆、アクリル 103 x 120 cm



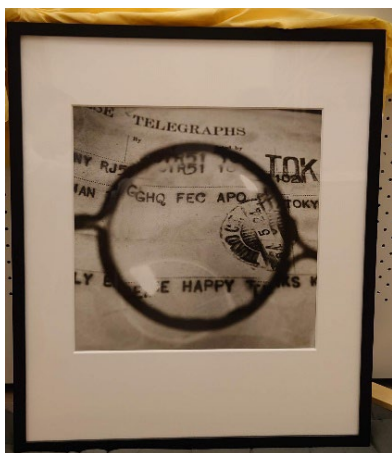
8. ピピロッティ リスト 「Homo Melting Touching Homo」 2007年 カラー写真 115x147 cm



9. ニコラ ビュフ 「聖クリストファー／ユリシーズ」 2014年 木、ペンキ、インダストリアルマーカー 165.5 x 150 x 35 cm



10. 米田知子 「藤田嗣治の眼鏡—日本出国を助けたチャーマン GHQ 民政官に送った電報を見る」 2015年 ゼラチンシルバープリント 38 x 38 cm



B. 普及事項

【1】 イベント、講演会、教育プログラム等

本年度は下記の通り、14件のイベント等を開催した。

(1) 原美術館 ARC メンバー限定イベント「Art in Town: 国立西洋美術館」

日時：2024年5月11日（土）14:00-

会場：国立西洋美術館

参加費：2,000円（入館料別）

注目の展覧会を見学する、原美術館 ARC メンバーシップ会員のための特別プログラムとして、国立西洋美術館初の試みとして開催された、現代アーティストとのコラボレーション展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか?——国立西洋美術館 65年目の自問 | 現代美術家たちへの問いかけ」を訪問した。当日は、参加アーティスト鷹野隆大氏に展覧会場で解説いただいたのち各自で自由に展覧会を鑑賞した。

参加人数：11名

(2) 担当学芸員によるギャラリーガイド

日時：2024年6月2日（日）13:30、11月3日（日）13:30

会場：原美術館 ARC ギャラリーA、B、C

参加費：500円（入館料別）

「日本のまんなかでアートをさげんでみる」（春夏季）と「心のまんなかでアートをあじわってみる」（秋冬季）中に、それぞれの担当学芸員によるギャラリーガイドを開催。展覧会に込められたメッセージや展示作品の詳しい解説、当館コレクションに加えられた経緯など、参加者からの質疑応答を織り交ぜながら展示会場を巡った。

参加人数：8名（6月2日）、6名（11月3日）

(3) 原美術館 ARC 賛助会員・寄付者限定イベント「展覧会ギャラリーガイド&青野館長を囲んでのカフェランチ」

日時：2024年6月23日（日）12:15-15:00

会場：原美術館 ARC

参加費：無料

日頃より当館の活動を支援くださっている、賛助会員および寄付者の方への感謝の気持ちを込めた限定イベントを開催した。展覧会「日本のまんなかでアートをさげんでみる」担当学芸員の坪内学芸部長と一緒に展示室を回るギャラリーガイドへご参加いただいたのち、カフェ ダールに移動して青野館長と一緒にテーブルを囲み、和やかなランチタイムをお楽しみいただいた。

参加者：6名

(4) アートを使った手話通訳実習（群馬大学との共催授業）

日時：2024年7月13日（土） 10:00-14:00

会場：原美術館 ARC 回廊（ワークショップ会場）、ギャラリーA、B、C

参加費：無料（入館料減免申請）

群馬大学共同教育学部で手話通訳を学ぶ学生による実践実習を本年度も開催。今回はうちわをつくるワークショップと、ギャラリー内での作品鑑賞の2本立てで行った。ワークショップでものを作るには両手を使うため、手話を用いたコミュニケーションに工夫が必要となる。そのためより日常生活での実践に近い内容となった。作品鑑賞では学芸員が作品の説明を行い、それを学生がろう者に向けて手話で通訳し、質問や感想についても手話を通してその場で丁寧に共有する。学芸員は専門用語を避け、ゆっくり話すなど、昨年の反省点を活かしながら、今回も言語や音情報に頼らないコミュニケーションの難しさや楽しさについて改めて考察する機会となった。

参加人数：10名（大学生7名、教員3名）

協力：群馬大学共同教育学部

（5）ワークショップ 和紙でうちわをつくろう

日時：2024年7月20日（土）、21日（日）各日10:00-13:00-/15:00-（所要時間約40分）

会場：原美術館 ARC 回廊スペース

参加費：600円（入館料別）

毎年開催している、染料で染めた和紙を用いてうちわをつくるワークショップを開催（7月13日、14日は「ろうけつ染め」の回だったが、講師急病につき延期。そのため両日は折り染めの内容に変更し開催した）。参加者は当館スタッフの指導のもと、折りたたんだ和紙を顔料インクで思い思いに染め、それを広げてうちわの骨に貼りつけて仕上げるもので、主に親子での来館者や小学生をターゲットにしている。簡単なワークショップを通して作品を作る愉しみを育み、また出来上がりの違いや個性を比べてみることで美術に親しむ感性を養うことを目的としている。事前予約も必要ないことから、飛び入りでの参加者も多くみられた。

参加人数：68名（4日間）

（6）ワークショップ ろうけつ染めでうちわをつくろう

講師：大竹夏紀

日時：2024年7月27日（土）、28日（日） ※7月13日、14日から変更

10:00-14:00-（所要時間各約120分）

会場：原美術館 ARC 回廊スペース

参加費：2,500円（入館料別）

うちわを作るワークショップの特別回として、昨年に引き続き、県内在住の染色アーティスト 大竹夏紀氏を講師にろうけつ染めでうちわをつくる回を開催した。専門的な道具が必要な「ろうけつ染め」を体験する数少ない機会でもあり、作家指導のもとオリジナルのうちわを作れることが好評を得ている。当日は作家のファンを中心に、小学生からシニア世代まで幅広く参加。回廊から見えるさわやかな景色や、展覧会も合わせて、原美術館 ARC で過ごす「アートなひととき」を

お楽しみいただきました。

参加人数：21名

(7) 「Meet the Artist: 森村泰昌 私説 レンブラントはどんな画家？」

講師：森村泰昌

日時：2024年8月25日（日）16:45-17:45

会場：原美術館 ARC カフェ ダール

参加費：1,500円（一般）、1,000円（原美術館 ARC メンバー）入館料別、1ドリンク付き

長年にわたって国際的なアートシーンの第一線で活躍を続ける森村泰昌氏による講演会を開催。常設作品『輪舞（双子）』のほか、開催中の「日本のまんなかでアートをさげんでみる」展で展示中のレンブラントを題材としたシリーズを中心に、自作についてたつぷりと語っていただいた。トーク終盤には、森村氏による長編映像作品『エゴシンボシオン』の中から、当館のユニークな環境を活かして撮影された〈レンブラントの章〉も特別上映するなど、終始集まった多くのファンを魅了した。

参加人数：65名

(8) 屋外作品ガイドツアー

日時：2024年9月22日（日）11:00-、10月5日（土）11:00-（所要時間各約60分）

会場：原美術館 ARC

参加費：500円（入館料別）

自然豊かな環境や、その中に佇む磯崎新氏設計の建築、そして見過ごされてしまいやすい屋外作品を巡るツアーを開催。参加者は当館学芸員による作品解説や建築の特徴、植栽や季節ごとの楽しみ方の説明に耳を傾けつつ、質疑応答を交えながら和やかな会となった。展覧会とは別の側面から当館の魅力を知ってもらう機会でもあるので、今後も継続して開催したい。

参加人数：2名（9月22日）、1名（10月5日）

(9) 「Meet the Artist: 東芋 秋の夜長の東芋語り 第2夜」

講師：東芋

日時：2024年10月13日（土）16:15-17:45

会場：原美術館 ARC カフェ ダール

参加費：1,500円（一般）、1,000円（原美術館 ARC メンバー）入館料別、1ドリンク付き

開催中の展覧会「心のまんなかでアートをあじわってみる」関連イベントとして、東芋氏によるトークイベントを開催。青野和子館長を聞き手に、常設作品『真夜中の海』や展示中の近松門左衛門の人形浄瑠璃『曾根崎心中』を映像インスタレーションとして作品化した『糸口心中』（当館では初公開）を中心に、近年の多岐にわたる創作活動で気づいたご自身の変化など、これまでの活動を振り返りながらお聞きした。会場となるカフェでは、作家自身が持ち込んだ作品原画も展示・公開するなど、貴重な一夜となった。

参加人数：42名

(10) 対話型作品鑑賞

日時：2024年11月9日（土）11:00-12:00

参加費：無料

協力：対話型アート鑑賞ラボ

「対話型鑑賞」とは、文字通り、参加者どうしがおしゃべりをしながら鑑賞することで作品の見え方を広げていく方法。開催中の「心のまんなかでアートをあじわってみる」展では、作品と向き合ったときに頭で考えすぎず、自分自身の心のなかに浮かんだ印象や疑問を大切にしたいというメッセージを込めているため関連企画として開催した。今回は、県内で活動する「対話型アート鑑賞ラボ」にファシリテーターを依頼し、事前に打ち合わせを重ね、1作品15分程度を巡るプログラムを組んだ。当日の参加者には他の人と意見交換をしたい方、当館メンバーシップ会員、美術館の教育普及に携わる方や他館でボランティアをされている方も交えながらグループごとに積極的な意見交換が見られ、一緒に回った担当学芸員にとっても思いがけない発想や見方、解釈を聞くことができ、有意義な時間を過ごすことができた。

参加人数：9名

(11) 学校の先生無料鑑賞日

日時：2024年12月23日（月）-12月29日（日）

※休館日である12月26日（木）を除く6日

会場：原美術館 ARC

参加費：無料

対象の期間中、教育機関に携わる教職員の方々を対象に、当館を利用した授業や学外活動などを検討いただくことを目的とした無料観覧・自由見学の機会を設けた。まずは学校の先生に当館に来ていただき、どのようなワークショップや鑑賞教育ができるのかを具体的にイメージしてもらうことが狙い。今年度から初めて開催するため、事前に渋川市教育委員会に相談し、校長会で告知を行うなどの働きかけを行った。期間中合計38名の先生が参加したほか、当日や後日にこの取り組みについての問い合わせもあり、継続して行うことで教育関係施設での当館の認知度が高まるのではないかと手ごたえを感じる機会になった。

参加人数：38名

(12) 原美術館 ARC メンバー限定イベント Art in Town: 特別レクチャー「知っておくべきデジタルアートの今」

講師：斯波雅子氏

日時：2025年2月9日（日）14:00-15:30

会場：Spacetainment Coffee

聴講料：3,500円（ドリンク代含む）

原美術館 ARC メンバーシップイベントとして「知っておくべきデジタルアートの今」と題した特別レクチャーを、東京の Spacetainment Coffee にて開催した。アジア文化系団体のマネジメントやアート&テクノロジー分野で豊富な経験を持つ専門家であり、非営利団体 BEAF 共同創設者兼 ED の肩書を持つス波雅子氏から、具体的な事例を通して、NFT、ブロックチェーン、AI アートなど、最新のデジタルアートの状況について包括的な内容を伺った。

参加人数：7名

(13) 「Meet the Artist: ジャネット カーディフ」

講師：ジャネット カーディフ

日時：2025年3月23日（日）14:30-16:00

会場：原美術館 ARC カフェ ダール

参加費：一般1,500円、大高生700円、小中生500円 原美術館 ARC メンバー無料（入館料別）

特別企画「ジャネット カーディフ：40声のモテット」の関連イベントとして開催。当館ギャラリーAで展示中の「40声のモテット」や近作について、アーティスト本人から話を聴くことのできる貴重な機会となった。また講演会終了後には会場を当館回廊スペースに移し、作家を囲みでのミニパーティーを開催した。

参加人数：56名

(14) 原美術館 ARC メンバー限定イベント 開架式収蔵庫ツアー（所要時間約60分）

日時：2024年4月14日（日）11:00 4名

5月5日（日）11:00 1名

6月2日（日）11:00 メンバー5名、一般12名

7月7日（日）11:00 7名

8月4日（日）11:00 1名

9月1日（日）11:00 0名

10月13日（日）14:00 15名

11月3日（日）11:00 メンバー2名、一般6名

12月1日（日）11:00 4名

2025年1月5日（日）11:00 2名

2023年度よりメンバー特典として開催している開架式収蔵庫ツアー。通常は非公開の開架式収蔵庫内で、当館の所蔵作品や開催中の展覧会について解説する機会とした。

※6月2日（土）、11月3日（土）は一般参加者（有料：1,000円/入館料別）あり。

※10月13日（土）は「Meet the Artist: 束芋」開催とあわせ14:00開催。

参加人数合計：59名

【2】外部協力

青野和子

東京都現代美術館 美術資料収蔵委員会委員

群馬県文化審議員

群馬県博物館連絡協議会 副会長

渡辺純子

アジアン・カルチュラル・カウンシル日本財団 理事

坪内雅美

学習院大学 非常勤講師

【3】所蔵作品の貸し出し

(1) 貸出先：富山県美術館

期間：2024年2月1日から4月11日

理由：「倉俣史朗のデザイン-記憶のなかの小宇宙」展（2024年2月17日から2024年4月7日）

への貸し出し出品のため ※三会場の巡回展の第二会場

作家名：倉俣史朗

作品名《インペリアル》（1981年）

(2) 貸出先：横尾忠則現代美術館

期間：2024年1月14日から5月14日

理由：「横尾忠則 ワーイ！★Y字路」展（2024年1月27日から5月6日）への貸し出し出品のため

作家名：横尾忠則

作品名：《暗夜行路 眠れない街》（2001年）、《暗夜行路 2001年9月11日》（2001年）

(3) 貸出先：京都国立近代美術館

期間：2024年4月11日から8月29日

理由：「倉俣史朗のデザイン-記憶のなかの小宇宙」展（2024年6月11日から8月18日への貸し出し出品のため ※三会場の巡回展の第三会場

作家名：倉俣史朗

作品名《インペリアル》（1981年）

(4) 貸出先：愛知県美術館

期間：2024年5月21日から10月1日

理由：「アブソリュート・チェアーズ」展（2024年7月18日から9月23日）への貸し出しのため ※二会場の巡回展の第二会場

作家名：ジム ランビー

作品名：《トレイン イン ヴェイン》（2008年）

（5）貸出先：横尾忠則現代美術館

期間：2024年8月22日から12月27日

理由：「レクイエム 猫と肖像と一人の画家」展（2024年9月14日から12月15日）への貸し出し出品のため

作家名：横尾忠則

作品名：《戦後》（1985年）※磯崎新監修（再制作）フレーム付き

（6）貸出先：茨城県立歴史館

期間：2024年12月17日から4月中旬

理由：「開館50周年記念 雪村 一常陸に生まれし遊歴の画僧一」展（2025年2月15日から4月6日）への貸し出しのため

作家名：雪村

作品名：《列子御風図》（室町時代）

（7）貸出先：鳥取県立美術館

期間：2025年3月2日から6月下旬

理由：「アート・オブ・ザ・リアル 時代を超える美術」展（2025年3月30日から6月15日）への貸し出しのため

①作家名：円山応挙

作品名：《淀川両岸図巻》（本図）（江戸時代）

②作家名：スラシ クソンウォン

作品名：《Small is Beautiful- Gerhart Richter（小さいことは美しい-ゲルハルト リヒター）》（2001年）

③作家名：スラシ クソンウォン

作品名：《Small is Beautiful- Floating Market（小さいことは美しい-水上市場）》（2001年）

【4】学校、団体来館の記録

中学校・高等学校1件、大学7件、専門学校2件、一般団体他34件 899名

詳細

・学校団体10件

東京藝術大学（9名）、山脇美術専門学校 VD科（84名）、群馬大学（10名）、NHK 学園高等学校（53名）、国学院大学（26名）、筑波大学（26名）、日本大学（2024年9月22日利用、30名）、中央工学校（31名）、学習院大学（10名）、日本大学（2025年3月28日利用、20名）

・一般団体 34件

ティコティン日本美術館関係者（7名）、福生市民生児童委員協議会（27名）、T-LIFE ホールディングス(株)生活クラブ（16名）、デザインファーム建築設計スタジオ（22名）、南海国際旅行アートツアー（23名）、アジアソサエティ（21名）、国際交流基金（12名）、埼玉県立近代美術館友の会（29名）、ブライトスプーン（韓国旅行会社、3回利用、計53名）、クラブツーリズム（4回利用、計69名）、他

【5】ポスター・チラシなどの作成配布

(1)「日本のまんなかでアートをさげんでみる」	ポスター	チラシ
	100枚	30,000枚
(2)「心のまんなかでアートをあじわってみる」	ポスター	チラシ
	100枚	25,000枚

C. 広報

原美術館ARC

取材件数 208件(和文媒体 204件／外国語媒体 4件)

令和6年度は「日本のまんなかでアートをさげんでみる」展(第一期)と「心のまんなかでアートをあじわってみる」展(第二期)のふたつのコレクション展を開催。当館のある渋川市は「日本のへそ」を称していることから「まんなか」を共通テーマにしつつ、美術館は国内外に向かってアートを発信する役割と、自分の内側にアートを引き寄せる場であるという真逆のベクトルを持っていることに着目し、第一期・第二期で異なる内容になるよう企画した。両展覧会とも内覧会は開催せず、第一期は3月18日と22日、第二期は9月17日にプレス向けギャラリーガイドを開催した。

特別展や国宝・重要文化財などの展示を行わないものの、コレクションの多彩さを活かしたセレクト、そして第一期・第二期ともにギャラリーAに大きな作品を展示するなどしてメディアの目を引く展示を行った。新聞やインターネット記事、雑誌だけでなく、4月26日には群馬テレビ、5月17日には千葉テレビの取材があり、さらに10月9日にはテレビ朝日系の朝の情報番組「グッド！モーニング」の生中継を当館から行った。ここでは人気の気象予報士、依田司氏のお天気コーナーで草間彌生「ミラールーム(かぼちゃ)」、鈴木康広「日本列島のベンチ」やジャン=ミシェル オトニエル「Kokoro」など当館の顔とも呼べる作品をご紹介いただいた。番組放送中から多数の問い合わせがあり、入館者が急増した。もうひとつ反響のあった取材として、人気ウェブサイト「ほぼ日刊イトイ新聞」の中のコーナー「常設展へ行こう！」で取り上げられ

た点も特筆したい。この記事は12月19日から30日まで12日間、連続して公開されたこともあり、年末年始の観光客誘致につながった。

このほか、8月25日に森村泰昌氏、10月13日に東芋氏の講演会を開催した際に両氏のインタビュー動画を撮影、当館公式YouTubeにて公開した。昨年制作した奈良美智氏のインタビューとともに、多くのファンを引き付け効果的なPRとなっている。本年度はこれまで課題としていたSNSの更新頻度を増やすことができ、展覧会情報に四季折々の自然環境の美しさや、便利な交通情報、ミュージアムショップのグッズやカフェのメニューを織り交ぜ紹介することで、多くの観光客を誘致するよう工夫した。引き続き、満腹家もぐもぐ氏に作品のイラスト解説を依頼し、こちらも好評なことから、今後も展覧会開催情報だけの情報発信に留まらない多角的な試みを行いたい。

外国語媒体ではインバウンド向け観光情報サイト「Greater TOKYO」による取材掲載があった。

なお、館公式のX(旧twitter)はフォロワー数約120,000人と昨年とほぼ同様だが、Instagramは約35,000人から約37,000人へと増加している。

■ 展覧会 計 156 件(和文 154 件／外国語 2 件)

1. 日本のまんなかでアートをさげんでみる
(2024年3月16日－2024年9月8日) 71件[和文70件／外国語1件]
2. 心のまんなかでアートをあじわってみる
(2024年9月14日－2025年1月13日) 67件[和文66件／外国語1件]
3. この、原美術館 ARC という時間芸術
(2025年3月15日－2025年7月6日) 13件[和文13件]
4. 〈特別企画〉ジャネット カーディフ:40 声のモテット
(2025年3月15日－2025年5月11日) 5件[和文5件]

■ 施設紹介、他 計 52 件(和文 50 件／外国語 2 件)

1. ARC 施設紹介 33 件[和文 31 件／外国語 2 件]
2. イベント、ワークショップ 6 件[和文 6 件]
3. カフェ ダール 3 件[和文 3 件]
4. ザ・ミュージアムショップ 2 件[和文 2 件]
5. ロケ 1 件[和文 1 件]
6. ARC その他 5 件[和文 5 件]
7. その他 2 件[和文 2 件]

〈掲載媒体〉(和文／外国語、順不同)

【新聞】上毛新聞、読売新聞、タウンぐんま(群馬よみうり)、朝日新聞、毎日新聞、東京新聞、産経新聞、新美術新聞(美術年鑑社)、教育家庭新聞

【美術・デザイン専門誌】月刊ギャラリー(ギャラリーステーション)、美術の窓(生活の友社)、アートコレクターズ(生活の友社)、アーチ(アートコレクションハウス)、東京ミュージアムガイド改訂版(朝日新聞出版)、白髪一雄-行為にこそ総てをかけて-(青幻舎)

【情報誌】わんだふるオーナーズ(CHINTAI)、Honda じゃらん(リクルート)、nakama(茨城トヨタ)

【一般誌】和楽(小学館)、ブレーション(宣伝会議)、旅行読売(旅行読売出版社)、じゃらん関東東北(リクルート)

【男性誌】men'sFUDGE(三栄)、POPEYE(マガジンハウス)

【女性誌】marie claire(読売新聞社)、家庭画報(世界文化社)、FUDGE(三栄)、フィガロジャポン(CCC メディアハウス)、ゆこゆこ関東版(ゆこゆこホールディングス)

【フリーペーパー】西 Navi(JR 西日本)、月刊留学生(大悟)、きりり渋谷(渋谷市)

【ガイドブック】群馬の博物館・美術館ガイドマップ(群馬県博物館連絡協議会)、るるぶ(JTB パブリッシング)、るるぶ情報版(JTB パブリッシング)、ことりつぶ(昭文社)、まっぷるマガジン(昭文社)、COLOR+(昭文社)、地球の歩き方群馬(地球の歩き方)

【ムック・書籍】首都圏発日帰り大人の小さな旅(昭文社)、原六郎-渋谷栄一と並び立つ実業家-(神戸新聞総合出版センター)、丹下健三・磯崎新 建築図鑑(総合資格)

【その他・専門誌】リロクラブ会報誌(リロクラブ)、みなとびつく福利厚生倶楽部(リロクラブ)

【スマホアプリ】チラシミュージアム(イープラス)

【ウェブサイト】美術手帖(美術出版社)、Internet Museum(丹青社)、TOKYO ART BEAT(アートビート)、Tokyo Live&Exhibits、Art iT(アートイット)、美術展ナビ(読売新聞)、個展ナビ(個展ナビ)、アートアジェンダ(FAITH)、アートスケープ(大日本印刷)、今見られる全国おすすめ展覧会 100(KATYCOM)、ArtSticker(TheChainMuseum)、アートテラー・とに〜の【ここにしかない美術室】、Sfumart(ミュージアムマン)、群馬県の博物館・美術館をかたん検索(群馬県博物館連絡協議会)、日本美術著作権協会、ART news JAPAN(MAGUS)、美術館巡りのお手伝い!、ARToVILLA(大丸松坂屋百貨店)、Art Photo Site(ブリッツ・インターナショナル)、常設展へ行こう!(ほぼ日刊イトイ新聞)、Premium Japan(プレミアムジャパン)、VOGUE JAPAN(コンデナストジャパン)、FIGARO.JP、エル・デコ(ハースト・デジタル・ジャパン)、GINZA(マガジンハウス)、モダンリビング(ハースト婦人画報)、ぴあ、東京アートニュース(株式会社MAP&NEWSnet)、心にググっと観光ぐんま(群馬県)、ぐんラボ(朝日企画)、Walker plus(KADOKAWA)、

Fashion Press(Fashion Press)、goo ニュース(NTT レゾナント)、伊香保づくし(伊香保温泉旅館協同組合)、日本旅行(株式会社日本旅行)、BIGLOBE 旅行(ビッグロブ)、駅探、るるぶ+(JTB パブリッシング)、ゆこゆこ、Greater TOKYO(関東広域観光機構)、Tokyo Weekender(ENGAWA)、関越交通、他

【YouTube】群馬県公式チャンネル・tsulunos

【その他】ぐんまちゃん SNS(群馬県)、しぶかわ広域おでかけマップ改訂版(渋川市)

D. Hara Museum Web

www.haramuseum.or.jp

blog:www.art-it.asia/u/HaraMuseum

Twitter: @haramuseum_arc

Instagram: @haramuseumarc

令和 6 年度の動き

当館と所蔵作品へより一層の親しみを持ってもらえるよう、スペシャルページに満腹家もぐもぐ氏による作品イラスト解説を掲載し、好評を得た。今後は公式ウェブサイトへのプライバシーポリシーの掲出や Web アクセシビリティなど未着手の部分についても対応を進めていきたい。

〈アクセスログ解析 (<https://www.haramuseum.or.jp>)〉

*月平均訪問者数 57,030 件

*月別最多訪問者数 82,489 件 (2024 年 10 月 展覧会「心のまんなかでアートをあじわってみる」)

※2024 年 5 月の公式ウェブサイトサーバー変更に伴い、アクセスログ解析の項目も前年度から変更となった。

E. 海外交流

【1】 招聘

1. ジャネット カーディフ(「40 声のモテット」展 作家)
2. テイトス マダーレヒナー(「40 声のモテット」展 技術者)

【2】 派遣 なし

F. メンバーシップ

【1】メンバーシップの動き

令和6年度は、全会員への特典として、原則毎月第一土曜日に開催していた「原美術館 ARC メンバー限定開架式収蔵庫ツアー」を、高崎駅発着の関越交通路線バス「原美術館 ARC 線」の運行日に合わせ、毎月第一日曜日に開催する形へと変更した。この変更により、利便性が向上し、参加者の多くから好評を博した。さらに、館外訪問型イベント「アート イン タウン」では、国立西洋美術館における初の試みとして開催された、現代アーティストとのコラボレーション展「ここは未来のアーティストたちが眠る部屋となりえてきたか? —— 国立西洋美術館 65 年目の自問 | 現代美術家たちへの問いかけ」を見学した。当日は、出品作家の鷹野隆大氏に、ご自身の作品の前で解説していただくという貴重な機会となった。また、6 月には賛助会員および寄付者限定の特別イベントとして、担当学芸員による展覧会ギャラリーガイドと青野館長を囲んでのカフェランチを開催した。いずれのイベントも「楽しく有意義なイベントだった」「会員になっていなかったら絶対にできないような素敵な時間を体験させていただいてとても感謝しております」といった好意的な感想が寄せられた。今後も群馬県内および東京・首都圏在住の会員双方にとって魅力的なプログラムを提供し、会員数の増加を目指して活動を推進してゆきたい。

会費・会員数推移

令和6年度は前年度にくらべ、会員数はほぼ横ばいとなったが、法人賛助会員1件が組織解散により継続されなかったことが、会費収入の減額に繋がった。

令和6年度末における会員総数は84件。新規加入14件、継続加入70件。

(単位:円、消費税込)

令和4年度		令和5年度		令和6年度	
会員数	会費金額	会員数	会費金額	会員数	会費金額
106	5,180,000	87	4,785,000	84	4,290,000

【2】カテゴリー別会員数

フレンズ会員 60 名、個人賛助会員 16 名、法人賛助会員 8 社

II. 庶務事項

A. 役員に関する事項

令和7年3月31日現在

(50音順)

役員	氏名	就任年月日	担当職務	職業
評議員	麻生和子	R1.6.19		一般財団法人アジアン・カルチュラル・カウンシル日本財団 代表理事
評議員	大林剛郎	H23.11.1		株式会社大林組 取締役会長 兼 取締役会議長
評議員	佐藤陽一郎	R4.7.29		太陽グラントソントン税理士法人 代表社員 税理士
評議員	徳川義崇	H27.6.25		公益財団法人徳川黎明会 会長
評議員	原直道	H23.11.1		日本土地山林株式会社 代表取締役社長
評議員	丸山剛郎	H27.6.25		大阪大学名誉教授、特定非営利活動法人日本咬合学会 理事長、歯学博士

役員	氏名	就任年月日	担当職務	職業
理事長	原俊夫	H23.11.1	常勤	日本土地山林株式会社 取締役会長
常務理事	原洋子	R1.6.19	常勤	株式会社アータック 取締役
理事	國生肇	H23.6.30		國生肇法律事務所 弁護士
理事	坂本正	H23.6.30		学校法人高輪学園 理事長
理事	平野信行	R4.7.29		株式会社三菱UFJ銀行 特別顧問
理事	安田信	H23.6.30		株式会社安田信事務所 代表取締役社長

役員	氏名	就任年月日	担当職務	職業
監事	千葉雄二	H27.6.25		千葉雄二税理士事務所 税理士
監事	野嶋慎一郎	H23.6.30		野嶋慎一郎法律事務所 弁護士

B. 職員に関する事項

令和7年3月31日現在

所 属	主な役職者、部署別人数	担 当 業 務
原美術館ARC	館長 青野和子	美術館統括 主任学芸員 教育プログラム事項 作品管理事項
	学芸部 3名	学芸事項
	管理部 1名	管理業務
理事長室	1名	国際プログラム事項 メンバーシップ事項
事務局	事務局長 加藤隆一	法人事務
合 計	7名	

(備 考)

1. 上記の他、アルバイトが常勤している。

C. 役員会事項

1. 評議員会

【第1回開催】令和6年6月11日

[報告事項]

(1) 令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）事業内容報告の件

[決議事項]

(1) 令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）計算書類承認の件

[結果] 報告事項について議長は、令和5年度の事業経過につき、理事長他担当学芸員等に説明を求め、別添資料に基づく詳細な説明がなされた。

第1号議案については、出席評議員全員一致をもって原案どおり承認可決した。

2. 理事会

【第1回開催】令和6年5月27日（理事会の決議があったものとみなされた日）

[決議事項]

(1) 令和5年度（令和5年4月1日から令和6年3月31日まで）事業報告内容を報告し、計算書類等承認決議の件

(2) 定時評議員会招集決議の件

[結果] 令和6年5月20日、理事長原俊夫が理事及び監事全員に対して上記理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該議案につき、令和6年5月27日に理事の全員から書面により同意の意思表示を得たので、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなされた。

【第2回開催】令和6年6月11日

[決議事項]

(1) 古美術作品寄附受入れ承認の件

[報告事項]

(1) 職務執行状況報告

[結果] 第1号議案について議長は、原俊夫理事長が所有している古美術品22点を当財団へ寄付したい旨の申し出があり、これを受け入れ当財団の基本財産にすることについて、これを出席者一同に諮ったところ、全員一致をもって原案通り承認可決した。

報告事項について常務理事から、本年4月に新卒の学芸員職員1名を採用したこ

とについて報告があった。また、来年3月に海外作家ジャネット カーディフを招聘しての展覧会を予定し、その費用確保のために協賛金を募る計画である旨の説明があった。

【第3回開催】 令和7年2月10日（理事会の決議があったものとみなされた日）

〔決議事項〕

（1）主たる事務所移転の件

当法人の主たる事務所を下記の通り移転することについて承認を求める。

主たる事務所移転先 東京都品川区北品川四丁目7番6号

主たる事務所移転日 令和7年2月10日

〔結果〕 令和7年1月16日、理事長 原俊夫が理事及び監事全員に対して上記理事会の決議の目的である事項について提案書を発し、当該議案につき、令和7年1月24日に理事の全員から書面により同意の意思表示があり、また監事の全員から異議なしとの意思表示を得たので、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第197条の規定及び定款第45条の規定により、当該提案を可決する旨の理事会の議決があったものとみなされた。

【第4回開催】 令和7年3月12日

〔決議事項〕

（1）令和7年度（令和7年4月1日から令和8年3月31日まで）事業計画及び収支算承認の件

〔報告事項〕

（1）令和6年度（令和6年4月1日から令和7年2月28日現在）事業執行状況報告の件

（2）原美術館ARC入館料一部改定について

〔結果〕 第1号議案について全員一致をもって原案通り可決承認した。

報告事項について議長は、令和6年度、令和6年4月1日以降の業務執行の状況説明のため、令和7年2月28日現在の別添資料に基づき、事業の推移と財政、損益の状況及び令和7年3月期の収支決算予想について説明し報告した。

また、入館料一部改定について、令和7年3月15日～5月11日の特別展示の期間、群馬県内の小中高生は入館料を無料とすることについて青野館長より説明があった。

D. 関連組織兼任事項

理事長原俊夫が役員を兼任する外部関連団体、役職
令和7年3月31日現在

1. ニューヨーク近代美術館国際評議会 名誉委員
2. ホノルル ミュージアム オブ アート 名誉評議員
3. 公益財団法人徳川黎明会 評議員
4. 公益財団法人大林財団 名誉評議員

E. 庶務

1. 博物館における青少年に対する学習機会の充実に関する基準、望ましい基準
群馬県に対し「青少年を対象にした取り組み等に関する実績報告」を令和6年6月
28日に届出した。

Ⅲ. 委託付帯事業事項

原美術館 ARCにおいて株式会社アーテックが当財団より委託され営業している The Museum Shop 及びカフェ ダールの運営状況は次の通りである。

【1】物販 (The Museum Shop)

年間販売額	1,676 万円 (税別)	年間利用客数	5,963 名	
〔内訳〕 店舗販売	1,545 万円 (税別)	5,862 件	対総入館者比	22%
オンライン販売	108 万円 (税別)	91 件		
通販・卸・委託販売	23 万円 (税別)	10 件		

主な販売商品

オリジナルポストカード、オリジナルグッズ、草間彌生グッズ、奈良美智グッズ、鈴木康広グッズ、倉俣史郎ポスター、内倉ひとみマルチプル、コムデギャルソン香水、MiW ハンカチ、メガネピン、KISSO アクセサリーなど、約 1,000 品目。

【2】飲食 (カフェ ダール)

年間販売額	959 万円 (税別)	年間利用客数	8,920 名	対総入館者比	33%
-------	-------------	--------	---------	--------	-----

IV. 寄付金等に関する事項

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

(単位：円)

寄付の目的	寄付者	領収金額	備考
1. 寄付金	個人	24,100,000	9件
	法人	9,300,000	3件
	寄付金計	33,400,000	
2. 助成金		0	
	助成金計	0	
合計		33,400,000	(内、使途指定寄付4件16,500,000)

事業報告の附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。